

「こおりやまの米」通信

平成24年6月22日



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

編集: 郡山市

JA 郡山市 (.921-0724)

NOSAI 郡山田村 (.933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (.935-1310)

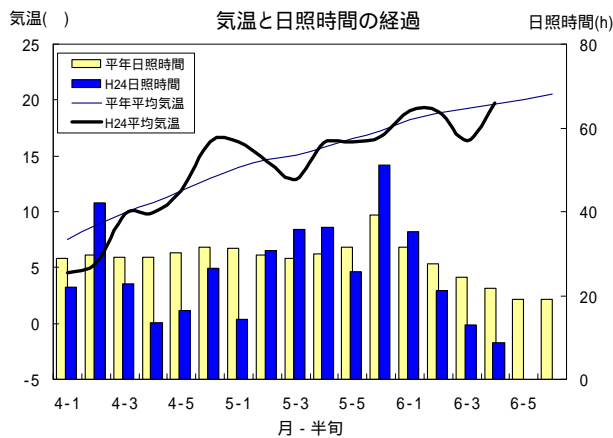
発行: 郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 .924-3761)

Vol.5 「除草・防除・中干し」次回は7月上旬

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります。

1 生育概況

- (1) 6月21日の調査結果では、平坦は草丈が平年に比べやや長く、茎数は平年に比べやや少なくなっています。湖南地区は草丈が平年並み、茎数は少なくなっています。
- (2) イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生は平年に比べ少なくなっています。



6月20日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉令
			株あたり	m ² あたり	
コシヒカリ (田村)	本年 平年比(%)・差	39.4 104	22.7 95	463 96	6.8 -0.2
ひとめぼれ (安積)	本年 平年比(%)・差	30.0 108	17.1 116	260 91	6.4 +0.3
天のつば (喜久田)	本年 前年比(%)・差	34.2 87	13.5 87	252 80	5.7 -0.5
あきたこまち (湖南)	本年 平年比(%)・差	28.2 100	6.5 57	125 52	4.2 -1.2

2 天気予報

< 予想される向こう1か月(6/16~7/15)の天候 >

(6月15日 仙台管区气象台発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

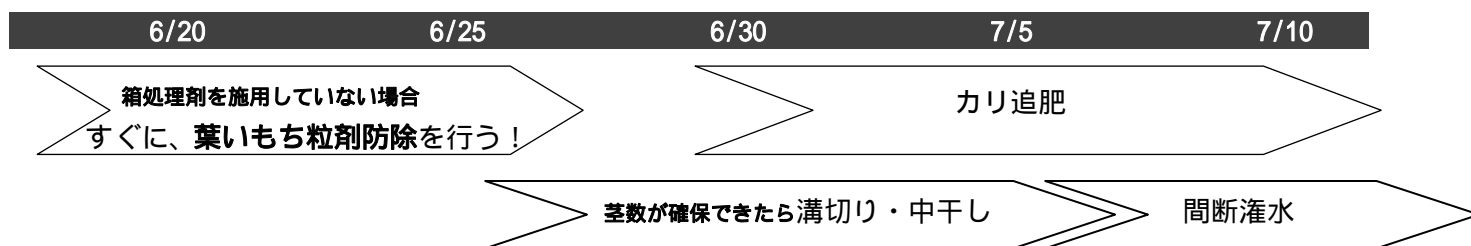
週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は低い確率が40%です、3~4週目は平年並の確率が40%です。

【3か月予報】(5月24日 仙台管区气象台発表から)

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

8月 東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わる見込みです。

3 作業のめやす



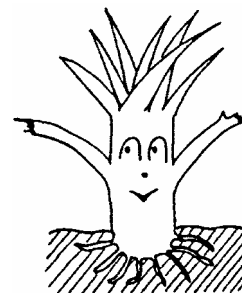
4 水管理 「溝切りと中干し」

茎数が少ないほ場では、引き続き浅水管理を行い、分けつを促進してください。

株当たり20~25本の分けつ(有効茎)を確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。

あわせて、溝切り(4~5m間隔)を行い、中干しを促進するとともに、その後の水管理を容易にしましょう。

中干しは、幼穂形成期前までに終了し、その後は間断かん水を行いましょう。



*中干しは土壌条件、生育状態に合わせて行ってね!

溝切りと併用すると落水が早いよ!

中干しの効果

- (1)有機酸や硫化水素などの水溶性の有害物質の排除
- (2)土中に酸素を供給することによって土の還元をなくす
- (3)土壌中のアンモニア態チッソの低下を促す
- (4)土壌を固くする
- (5)うわ根が出る



稲が開ちようして登熟を高める

- 根ぐされ防止
- 倒伏防止
- 中干しは田面に亀裂が入り足跡がつく程度！
- 生ワラ施用田、粘質土壌
- 生育過剰田
- 強めの中干し
- 地力のない水田
- 砂質土壌
- 間断かん水で(弱めの中干し)

5 葉いもち 「伝染源となる置き苗は今すぐ撤去しましょう」

東北地方は6月9日(平年6月12日頃)頃に梅雨入りしたと見られ、葉いもちに感染しやすい時期になりました。水面施用剤を遅れずに散布し、葉いもちの予防に努めましょう。

・まだ防除していない水田

オリゼメート粒剤等は、**葉いもち防除のため、すぐに散布**しましょう。地区全体で予防防除を徹底しましょう。

すでに発生してしまったら、粉剤・液剤等で防除し、拡大を防ぎましょう。

・移植時にウィン、Dr.オリゼ、デジタルコラトップの箱粒剤(長期持続型)を使った田

7月中～下旬に、水面施用剤(粒剤)で、穂いもち予防防除をおこなってください。

6 追肥 「カリ追肥で稲を丈夫に」

出穂40～35日前(6月下旬～7月上旬)に**カリの追肥**で、茎と根を丈夫にします。

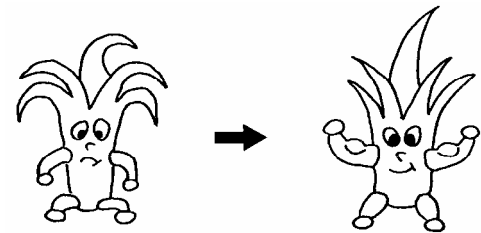
塩化カリ(出穂35日前) 7kg/10a:一般田

P K化成(出穂35日前) 20kg/10a:一般田

けい酸カリ(出穂40日前) 20kg/10a:でき過ぎた田、コシヒカリに有効

カリ肥料の効果

- 稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくなる)
- 根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上がりを防止する)
- 水分の調節の役目を果たす。(落水による干ばつの抵抗性を強めている)
- 籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。
- 穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。



平成23年度の研究成果として、カリの施用が放射性セシウムの確実な吸収抑制効果を生み出すことが解りましたので、放射性セシウムを含まない玄米生産に向け、カリ施用を進めてください。

(土壌中のカリ濃度により、施用量は異なりますので、JA、農業振興普及部まで問い合わせください。)

特に、稲わらを搬出し、堆肥を施用しない水田については、土壌中のカリ濃度が低いことが考えられますので、カリ施用を行ってください。

7 雑草防除 「ホタルイ・アゼナ対策」

雑草が残った場合は、下表を参考に、防除してください。

雑草	イネの茎数	除草剤	使用時期	収穫前日数	使用上の注意
ホタルイ、アゼナ等広葉雑草だけ残った田	まだ茎数が足りない田	バサグラン粒剤	移植後15～50日	60日前まで	落水し、尻水口をしめて散布する
	株20本以上確保した田	グラスジンMナトリウム粒剤	有効分けつ終止期～幼穂形成期前	60日前まで	
広葉とヒエの両方残った田	茎数に関係なく使える ヒエは5葉期まで	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ノビエ5葉期	50日前まで	
		フォローアップ1キロ粒剤	移植後25日～ノビエ5葉期	60日前まで	多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する

グラスジンMは分げつを止める作用があるので、茎数を確保してから使いましょう。

この資料は、平成24年6月19日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないよう、注意してください。

* 平成24年度福島県農薬危害防止運動展開中(6/1～8/31)